

主 訴

(保護者)
話がかみ合わない。

(担任)
教室での授業に入りにくい。指導がしにくい。

支援と配慮

< 通常の学級における支援 >

- ・ 全体への指示の後、本児の反応・でき方を見て、具体的に個別の声かけをする。
- ・ 指示は具体的にする。
(体育の着替え・教室移動・整理整頓など)
- ・ トラブル時は落ち着くのを待って話を聞き、別の対処の仕方を教える。文字に書いて、考えさせる事も必要。
- ・ 授業や作業などの始まり、終わりをはっきりさせる。
- ・ 指示を聞いて、できている時はほめる。
- ・ 家庭との連絡を密にする。

< 通常の学級外の支援 >

- ・ コミュニケーションスキルの練習。
- ・ ストップモーションをかけて、考えさせる。
- ・ 遊びやゲームを通して、ルールを守って楽しく遊ぶ経験をさせる。
- ・ 学級で起こったトラブルの具体的な場面をロールプレイして考えさせる。
- ・ 担任との連携。
- ・ 保護者との相談。

その後

< 通常の学級での様子 >

- ・ 担任が授業全体が枠組みとなるよう、学習する内容が明確な授業を心掛けたところ学級全体が落ち着き、本児も落ち着いて参加しやすくなった。
- ・ 周囲の児童の行動をモデルとして、一緒に行動できる場面が増えた。
- ・ 「わからないときは担任に聞く」がルール化した。

< 通常学級外での指導の様子 >

- ・ コミュニケーションスキルやルールを学ぶために、個別指導の時間を設定した。
- ・ 会話はファンタジーの世界に入りやすいが、現在は本人の世界を共有する段階である。

判 断

- ・ 人との関わりが一方通行的。
相手の立場に立って、考えられない。
- ・ こだわりがある。強いものはなく、軽い。
本の整理の仕方・水に対するもの・偏食
- ・ ことばに特徴がある。独り言が多い。イントネーションが気になる。
- ・ 想像力が乏しい。ファンタジーには入っていけるが、アドリブには付いていけない。相手の立場に立って考えられない。

以上のことから本児は自閉症スペクトラムと思われる。

